

数多くの御客様から選択していただいたクラウドモニタリングサービスの WhaTap
御客様の IT サービス性能を極大化します。

 WhaTap

DOCS

Java Application Monitoring Quickstart

Whatap Support

Version 1.0.0

Table of Contents

Javaアプリケーションモニタリングクイックスタート	1
1. インストール環境	2
2. エージェント構成ファイル	3
3. エージェントのインストール方法	4
3.1. プロジェクトの生成	4
3.2. ライセンスの発行	6
3.3. エージェントのダウンロード	6
3.4. エージェントのアップロード	7
3.5. エージェントのインストール	7
3.6. アプリケーションの再起動	7
3.7. モニタリングの確認	8

Javaアプリケーションモニタリングクイックスタート

題名 : Java Application Monitoring Quickstart

作成者 : Whatap Support

メール : support@whatap.io

日付 : 2019-10-25

バージョン : 1.0.0

概略 : Javaアプリケーションモニタリングクイックスタートガイド

本ガイドは使用者がWhaTapアプリケーションモニタリングサービスをTomcatのアプリケーションサーバーへインストールし確認する手順を紹介します。更に詳細な設定を要する機能に関しては利用者ガイドをご参考ください。

本ガイドはWhaTapアプリケーションモニタリングのインストール方法の中で「javaagent」方式を対象とします。「javaagent」方式はアプリケーションサーバーの実行時にエージェントを適用する場合の方式です。

Chapter 1. インストール環境

- ・ OS: Linux
- ・ アプリケーションサーバー: Tomcat
- ・ エージェントのインストール方式: “javaagent”
 - Windowsへインストールする場合は5章の Javaアプリケーションモニタリングをご参照ください。
 - Tomcat以外の WASへJVMオプションを追加する方法はWhaTapウェブでプロジェクト内の管理> エージェントのインストールページでご確認できます。

Chapter 2. エージェント構成ファイル

モニタリング情報を収集しサーバーへ転送するための Tracerとエージェントデバッグするためのシェルスクリプトで構成されています。エージェントを構成する各ファイルの説明は以下の通りです。

Table 1. エージェント構成ファイル

ファイル名	説明
whatap.agent.tracer-#.#.#.jar	(Tracerプログラム) ウェブアプリケーションサーバープロセスへ合体され性能情報を集め、サーバーへ転送するプログラム
whatap.conf	アプリケーションサーバー情報、データの収集対象のプロジェクトを特定するためのライセンスキー、そしてエージェントの各種オプションを含む設定ファイル
javaproc.sh(bat)	実行中JAVAプロセスのPIDとJVMオプション確認のためのシェルスクリプト
resmon.sh(bat)	CPU/Memory/Disk情報抽出確認のためのシェルスクリプト

Chapter 3. エージェントのインストール方法

アプリケーションモニタリングを利用するためにはモニタリング対象アプリケーションへエージェントをインストールする必要があります。

エージェントはWhaTapウェブサイトのプロジェクト内の画面からダウンロードできます。そしてダウンロードしたエージェントファイルをサーバーへ解凍後JVMオプションを追加し、アプリケーションを再起動することでインストールが完了します。

3.1. プロジェクトの生成

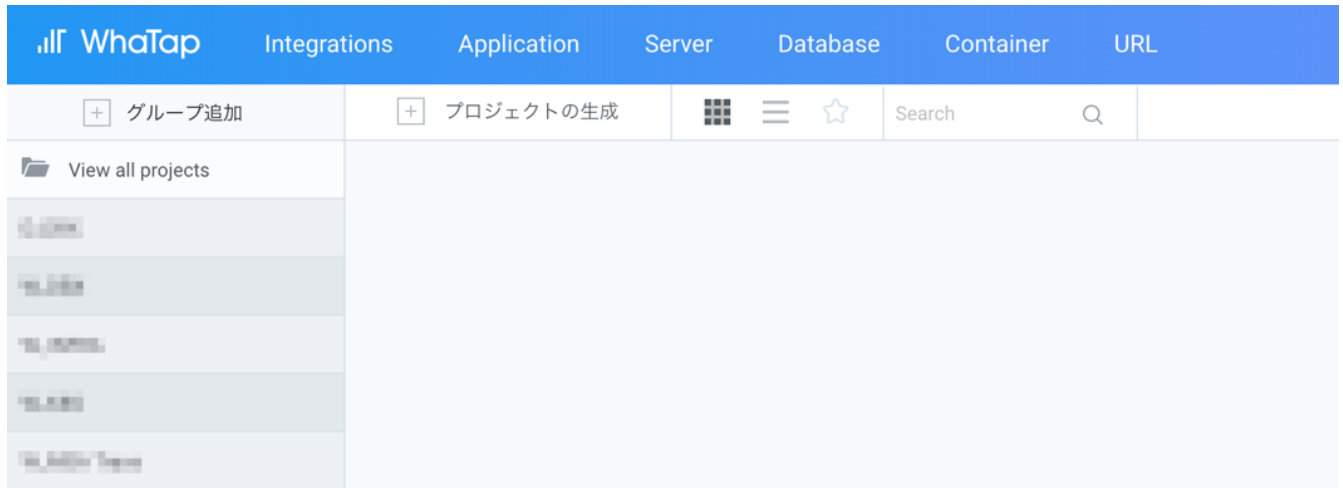











Figure 1. プロジェクトの生成

サーバーの登録の前にまずはプロジェクトを生成します。プロジェクトの生成ボタンをクリックすると次のようにプロジェクト生成画面が表示されます。Javaアイコンを選択し、ご希望のプロジェクト名とデータが保存されるサーバーの地域とプロジェクトが属するグループを選択し、保存ボタンをクリックします。

プロジェクトの生成 ×







プロジェクト名

データサーバー地域

プロジェクトグループ

プロジェクトタイムゾーン

イベント通知及びレポート生成時に使われます。

Figure 2. プロジェクト生成時データサーバー地域を選択

2. WhaTapエージェントのダウンロード

ダウンロードしたファイルをモニタリング対象サーバーへアップロードし、圧縮を解凍してください。(Window、Linux同様)

Agent Download

圧縮を解凍したディレクトリ配下の「whatap.conf」設定ファイルの内容を確認します。

```
license={ライセンスキー}
whatap.server.host=52.68.36.166/52.193.60.176
tx_caller_meter_enabled=true
sql_dbc_meter_enabled=true
httpc_host_meter_enabled=true
actx_meter_enabled=true
```

コピー

Figure 5. エージェントのダウンロード

ライセンス発行後「Agent Download」ボタンが活性化された後、クリックをしエージェントファイルをダウンロードします。

ダウンロードが完了すると圧縮ファイルの中にある「whatap.conf」ファイルの設定を確認し、ライセンスキーとデータ収集サーバーのIPアドレスが正常に定義されているかをご確認ください。

```
license={ライセンスキー}
whatap.server.host={データ収集サーバーのIPアドレス}
```



wgetなどで直接ダウンロードする場合、「whatap.conf」ファイルにライセンスキーとデータ収集サーバーのIPアドレスが設定されないため、アップロード後ライセンスキーとデータ収集サーバーのIPアドレスを自ら設定する必要があります。

3.4. エージェントのアップロード

アプリケーションサーバーがあるサーバーへ接続し、ダウンロードしたエージェントファイルをアップロード後、圧縮ファイルを解凍します。

- ・ \$WHATAP_HOMEはエージェントのインストールパスを表します。
- ・ エージェントは収集サーバーへアプリケーションの性能情報を転送するため、ファイアウォールへ収集サーバー向けの「TCPアウトバウンドの6600ポート」が開放されていなければいけません。

3.5. エージェントのインストール

アプリケーションサーバーのJVMオプションへ次のような「-javaagent」設定を追加します。

```
-javaagent:[エージェントのインストールパス]/whatap.agent.tracer-#.#.jar
```

常に\$WHATAP_HOME配下の最上位バージョンのエージェントを使いたい場合は、次のスクリプトを参考しエージェントを適用します。

```
##### WHATAP #####
WHATAP_HOME=/whatap
WHATAP_JAR=`ls ${WHATAP_HOME}/whatap.agent.tracer-*.jar | sort | tail -1`
JAVA_OPTS="-javaagent:${WHATAP_JAR}"
##### WHATAP #####
```

3.6. アプリケーションの再起動

アプリケーションサーバーを起動又は再起動後、アプリケーションサーバーのログ及びエージェントログを確認し、エージェントの正常起動を確認します。

```

Oct 16, 2019 3:06:40 AM org.apache.catalina.startup.HostConfig deployDirectory
INFO: Deployment of web application directory /var/lib/tomcat7/webapps/ROOT has finished in 577 ms
Oct 16, 2019 3:06:40 AM org.apache.coyote.AbstractProtocol start
INFO: Starting ProtocolHandler ["http-bio-8080"]
Oct 16, 2019 3:06:40 AM org.apache.catalina.startup.Catalina start
INFO: Server startup in 3984 ms

```

```

_ _ _ _ _
|||/||| _ _ / _ / _ _ _
|||/|_ _ _ _ /|||/ _ _ \
|_|/|_|/|_|/|_|/|_|/|_|/|_|/
|_|/

```

Just Tap, Always Monitoring
WhaTap Agent version 1.8.1 20191001

3.7. モニタリングの確認

エージェントが正常に起動したら、WhaTapウェブサイトのプロジェクト内の画面により、モニタリング状況を確認します。

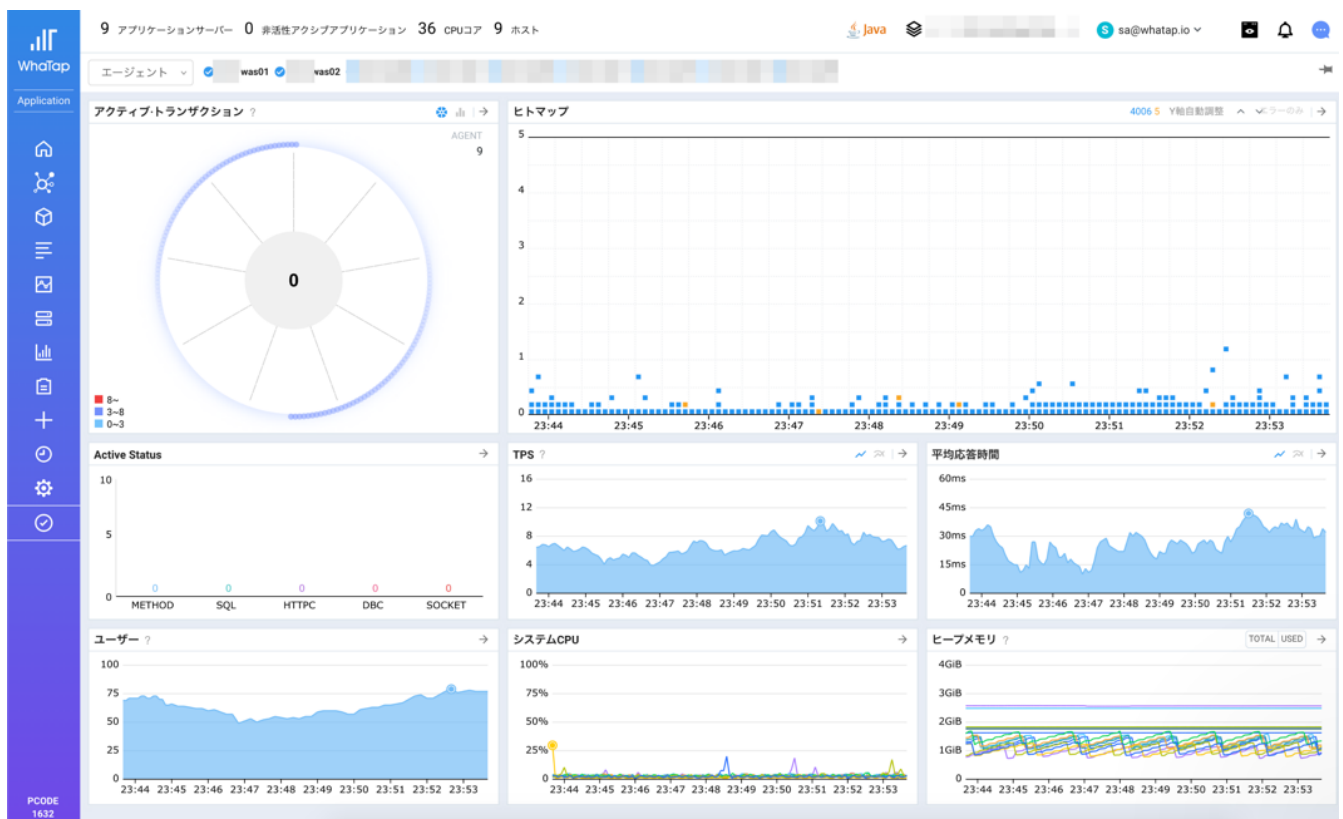


Figure 6. モニタリング状況確認

サーバーページではサーバーとの通信が確認できたアプリケーションのリストが確認できます。

3.7. モニタリングの確認

サーバー

非活性エージェントの削除時間 3日 旧バージョンで表示

#	アプリケーション	開始時間	活性 / 非活性	ステータス	バージョン	IP	CPU Core数
1	was09 修正	2019/09/19 22:32:52	2019/09/20 22:09:52	活性	1.7.7 20190524	11.12	4
2	was08 修正	2019/09/19 22:33:01	2019/09/19 22:33:31	活性	1.7.7 20190524	11.11	4
3	was07 修正	2019/09/19 22:32:52	2019/09/19 22:33:21	活性	1.7.7 20190524	11.10	4
4	was06 修正	2019/09/18 23:12:52	2019/09/18 23:13:15	活性	1.7.7 20190524	11.9	4
5	was05 修正	2019/09/18 23:13:09	2019/09/18 23:13:31	活性	1.7.7 20190524	11.8	4
6	was04 修正	2019/09/18 23:13:42	2019/09/18 23:14:05	活性	1.7.7 20190524	11.7	4
7	was03 修正	2019/09/18 23:19:37	2019/09/18 23:20:26	活性	1.7.7 20190524	11.6	4
8	was02 修正	2019/09/18 23:20:24	2019/09/18 23:20:46	活性	1.7.7 20190524	11.5	4
9	was01 修正	2019/09/18 23:25:17	2019/09/18 23:25:40	活性	1.7.7 20190524	11.4	4

Figure 7. 登録されたモニタリング対象のアプリケーションリスト